



アラカルト

海外鉄鋼事情-7

Korea Advanced Institute of Science and Technology 遊学記 (第2報)

A Report on Study Stay in Korea Advanced Institute of Science and Technology (Part 2)

八木順一郎 東北大学 名誉教授
Jun-ichiro Yagi

KAIST機械工学科の恒例の行事であるFaculty Workshop (Annual Mechanical Engineering Conference) が7月11日から2泊3日でYongpyong (龍平) Resortで開かれ、私も家内ともども参加させていただきました。このWorkshopは学科の将来について討議をすることを目的としていますが、Faculty Memberの懇親の意味もあり、毎年スポーツや保養の施設も充実している観光地のResort Hotelで開催されているとのことです。KAISTの機械工学科は50名以上の教授を擁する大学科である上家族連れで参加されている方もかなりおられ、大きな団体になっていました。Yongpyongは、つい先日開催地がきまりました2014年冬季オリンピックの開催候補地でありましたが残念ながら当選は致しませんでした。Pyeongchang (平昌、韓国北東部、江原道にある市) の近くで、立派なスキーのゲレンデがあるResort地です。冬季には日本からも多くのスキー客が来ているとのことです。Daejeon (大田) からはバスで3.5時間、約250kmにあり、日本でも大変人気のありますテレビドラマ、“冬のソナタ”のロケ地であり、宿泊したHotel内のDragon BarをはじめHotelの周囲に多くの撮影箇所があります。実は会場に到着した後、会議は韓国語で行うので、私は会議には参加しなくてよいということになり、到着日は近くの牧場、風力発電の風車の見学、2日目は午前中にOdaesan National Park (五台山国立公園) 内のハイキング、午後はHwanseongul Cave (幻仙窟、巨大な鍾乳洞、内部の見学コース1.6km) の見学、ならびに、Se、Geを多量に含有していることで有名なKure House Spaを楽しみ、3日目は午前中にHotel周辺を散策し、午後Daejeonに帰ってきました。

Yongpyongはスキー場で有名なところですが、恵まれた自然環境と整備させた観光、保養施設を有しており、四季を通じて観光客で賑わっているようです。先月行きましたGyeongju (慶州) のBomun (普門) 観光団地も同様でしたが、韓国のこれらレジャー施設の充実振りに驚かされます。

6月下旬から4週間にわたり、Thermal Engineering in Ironmaking Processesというタイトルで機械工学科の大学院生に15時間 (1単位分相当) の講義を行いました。聴講者は院生7名と教授1名の少人数でしたが、他の講義も同程度であるとのことで、少人数教育が徹底しているようです。参加してくれた学生諸君には製鉄プロセスの研究に興味を持ってもらえまして、私も楽しませていただきました。聴講頂いたProf. Choiからも大変有益であったとお言葉をいただき、6ヶ月の滞在期間中に多少でもKAISTに貢献できたことを喜んでおります。Choi教授の研究室の主要テーマは発電に関連した燃焼技術、廃棄物処理、および、製鉄プロセス解析などで、高温燃焼炉のシミュレーションモデルの開発を積極的に行っております。製鉄プロセスについても焼結機や高炉のモデル解析を進めていますが、実験的研究はPOSCOで行っており、KAISTでは解析のみを行っています。

KAISTは海外から留学生や研究員を受け入れています、ベトナム、インドなどから来ている方は多いのですが、中国からの留学生は余りいないようです。韓国はベトナム戦争以来ベトナムと親密な関係が続いており多くの留学生を受け入れていることはうなずけますが、中国からの留学生や研究員が少ないことは距離的な近さや人口の多さを考えますと不思議に感じます。KAISTのある教授は韓国側が受け入れないわけではないので、中国の方に何か歴史的な違和感があるのではと言っておられましたが、理由ははっきり致しません。学術交流は進められており、KAISTの多くの教授は中国の大学に積極的に出掛けようとしています。

7、8月は夏休みの期間で、学部生は休暇でほとんど登校しませんが大学院生は研究を続けています。教官は8月15日の光復節 (韓国の独立記念日で祝祭日) を中心に夏の休暇をとられる方が多いようですし、この間に海外に出張される方もかなりいるようです。私はこの期間を利用してSeoulに

2泊3日、Jejudo (済州島) に3泊4日の旅行を致しました。Seoulでは、テレビドラマ“長今の誓い”で日本でも有名になりましたDaeJangum Theme Park (大長今テーマパーク)を訪ね撮影のセットを見学しました。このテーマパークはSeoul特別市の北側にあるYangju (楊州) 市にあり、Seoulの中央部から地下鉄で1時間、更にバスで30分かかりました。撮影セットは大変良くできており朝鮮王朝時代の王宮、および庶民の暮らしを知ることができます。私も以前にテレビでこのドラマを見ていたのでいくつかの名場面を思い出し興味深く見学いたしました。この日は観光バスが多数来ており、日本からも多くの観光客が訪れておりました。DaeJangumについてはこのテーマパークのみならず、Suwan (水原) 市の華城行宮、韓国民俗村、JejudoのJeu Minsogchon、Oedolgae Rockなどの撮影地も見学することができました。いずれも韓国の文化遺産や自然の景勝地であり、観光客を楽しませてくれます。Seoul市内ではKorea Houseで伝統芸術である舞踊の公演を見、Namsangol Hanok Village (南山韓屋村) や世界遺産であるChangdeokgung (昌徳宮) を見学し、韓国の歴史に親しむ機会を得ました。韓国の文化の中には非常に日本的なもの、中国文化に近いものが交じり合っており、地理的な位置関係を強く反映しているように思えます。また、NamsanのSeoul Towerからは市内を一望でき、青瓦台、景福宮、漢江に架かる多くの橋、南部の高層ビル、南山の広大な緑地などSeoulの風景を見渡すことができました。

Jejudoでは、1日目はタクシーを借りきってSeogwipo (西帰浦) のJeongbang Falls (天地淵の滝)、Oedolgae Rock (弧石浦、写真1)、Daepohae (大浦海岸) の柱状岩など自然の美しい景観、ならびに、O'SullocTea House Museum (茶家博物館) およびBunjae Artpia (済州盆栽芸術苑) などJeuの文化的な側面も見学しました。Jeongbang



写真1 JejudoのOedolgae Rock

Fallsには天然記念物で体長2 mにもなる大うなぎが生息し、滝から流れ出す川の両岸には珍しいホルトの木が群生していました。Oedolgae Rockは岸に近い海中から20 mもの高さに岩が突き出ており、周囲の岩や松ノ木と共に他では見ることのできない景観を呈しています。DaepohaeはHallasan (漢拏山、韓国最高峰、1950 m) から流れ出た溶岩が多数の四角形や六角形の柱状に固化してできた絶壁に海水が打ち寄せる壮大な景色になっていました。O'SullocTea House Museumの近くには広大な茶畑があり、そこには多数の扇風機が取り付けられています。これは冬季にお茶の葉を霜からまもるために使われるとのことでした。このMuseumにはお茶を使ったクッキーやアイスクリームなども売られており、試食してみましたが、なかなかいい味をしています。Bunjae Artpiaには鉢に植えられた通常の盆栽もありますが、直接地面に植えられた大きな木にも手が加えられ、美しい形に整えられているのに驚かされました。長年にわたり手をかけ作り上げたものの素晴らしさに感心させられました。2日目はバスツアーでUdo (牛島)、Seopjikoji (洗地可支、All in撮影地) など美しい海岸線を見て廻りました。UdoはJejudoの東側にある人口1,800人の小さな島ですが、海岸線は美しく、小さいJejudoをみているようでした。Jejudoが世界自然遺産に指定されていることを充分納得させられました。

Jejudoの特産品はミカン、お茶及び海産物ですが、その他に黒豚、雉があります。アワビ粥、Jeu Porkの焼肉、雉のしゃぶしゃぶ、いか、ヒラメ、太刀魚の刺身などは大変美味です。

韓国に來ましてから寺院、古山城など主として山岳景勝地に出掛けておりましたが、8月にはBusan (釜山) のHaeundae (海雲台)、Jejudoの海岸に出掛け、山ばかりでなく海岸にも多くの景勝地があることを知りました。Seoul市内には多くの文化遺産がありますし、Jejudoには多くの自然の景勝地があり、また機会があれば訪ねてみたいと考えるようになりました。

本年は韓国における梅雨の時期が非常に不順で、Daejeonでは6月から7月下旬までは雨らしい雨は降りませんでした。8月に入ってもどんよりと曇った日が続き、4日の土曜日からは連日雷を伴う激しい雨が降り、8月下旬まで同じような天候が続き、本当に夏の日差しが照りつける暑い日は皆無のまま秋を迎えることを心配しておりました。私は8月31日に帰国いたしましたので、実際にDaejeonにおける9月の天候がどうなったのかは存じておりません。

3月から8月までの6ヶ月間お隣の国韓国に滞在させていただきましたが、KAIST学内の身近にお付き合いいただいた方々、および、学外における一般の韓国の人々はいずれも

大変親切で快適な生活を楽しませていただきました。学内の知り合いの先生方とは日韓間の政治問題などについてもフランクに話をしましたが、冷静に考えておられ、ある教授は、韓国人は獨島問題（竹島問題）と慰安婦問題を除けばみんな日本が大好きですと言っておられましたが、私が接しました

韓国の人々からも同様の印象を受けました。今後とも両国が仲良く進歩発展してゆくことを願い、終わりにさせていただきます。

（2007年10月10日受付）